

平成 16 年度 第 2 回常任委員会 議事録

日時：平成 16 年 7 月 9 日（金） 17：00～20：30

場所：ホテル日航高知 旭ロイヤル ゴールデンパシフィック（3F）

出席者：丸山委員長、井上、宇治、中村、三島、横田の各幹事、石橋、上田、魚本、梅原、大津、岡
沢、河野、坂井、堺、佐藤(良)、島、鈴木、十河、竹田、武若、辻、堤、手塚、富田、二羽、
福手、宮川、睦好、六郷、渡辺の各委員、古本オブザーバ、松沼事務局職員

配布資料：

2-0 平成 16 年度 コンクリート委員会 第 2 回常任委員会 議事次第

2-1 平成 16 年度 平成 16 年度第 1 回常任委員会議事録（案）

2-2 平成 16 年度 コンクリート委員会一般会計・特別会計 会計状況（7 月 6 日現在）

2-3-1 第 3 種小委員会の設置申請「複数微細ひび割れ型繊維補強モルタルの評価と利用研究小委
員会」

2-3-2 第 3 種小委員会：第 2 期目継続申請「弾性波法の非破壊検査研究（326）小委員会」

2-3-3 328 委員会第 2 期目継続について「コンクリート構造物のヘルスマニタリング研究小委員会」

2-4 示方書小委員会 4WG の委員の追加について

2-5 現状報告「コンクリート標準示方書英訳小委員会」

2-6-1 超高強度繊維補強コンクリート設計・施工指針（案）

2-6-2 超高強度繊維補強コンクリート設計・施工指針（案）への修正意見に対する回答（2004.7.9）

2-6-3 参考資料 1～10

2-7 電力施設解体コンクリートを用いた再生コンクリートの設計施工指針（案）

2-8-1 2003 年に発生した地震によるコンクリート構造物の被害分析

2-8-2 2003 年に発生した地震によるコンクリート構造物の被害分析(案)(第 2 回常任委員会提出)

に対する意見回答書

2-9-1 吹付けコンクリート研究小委員会 委員構成

2-9-2 耐震設計研究小委員会（329 委員会） 委員名簿

2-9-3 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会（新規） 委員名簿

2-10 調査研究活動成果の技術マップ作成についてのご協力とご回答依頼

2-11 台湾とのジョイントセミナーの内容について

2-12 JSCE Standard for Test Methods of Chloride Ion Diffusion Coefficients in Concrete

2-13 「複合構造委員会」新設提案について（案）

2-14 「生涯教育と情報発信に関するシンポジウム」開催のご案内

2-15 「弾性波法によるコンクリートの非破壊検査」に関するシンポジウム

2-16 「超高強度繊維補強コンクリートの設計・施工指針（案）」に関する講習会開催のご案内

2-17 「コンクリートの環境負荷評価」に関する講習会の開催について

議事：

1. 委員長挨拶

丸山委員長から開会の挨拶があった。7 月 8 日に逝去された国分正胤先生（元委員長）に 1 分間の

黙祷をささげた。

2．前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）（資料 2-1）が承認された。

3．審議事項

（1）コンクリート委員会平成 16 年度予算

井上幹事から、資料 2-2 に基づき、7 月 6 日現在の会計状況の説明がなされた。示方書舗装編に関する仕掛品および鋼コンクリート合成構造連合小委員会についての予算を変更したことを含め今年度の予算案が了承された。

辻委員から、ISO 対応特別委員会から下半期分の助成金が予定されているとの情報が提供された。

（2）第 3 種小委員会の設置・延長申請

六郷委員から資料 2-3-1、大津委員から資料 2-3-2、丸山委員長から資料 2-3-3 に基づいてそれぞれの小委員会の設置・継続趣旨説明がなされ、了承された。

（3）示方書小委員会の活動骨子と規準編の出版時期

魚本示方書小委員会委員長から、示方書小委員会の作業方針および WG の分担とメンバーが説明された。また、石橋同小委員会幹事長から、各 WG の設計対象施設および作業方針の予定が紹介された。丸山委員長から、性能照査型設計の内容について、官側とくに地方部局および地方公共団体への普及を図る必要があるとの指摘がされた。実務の人間が理解できるようなマニュアル類も含めて、成果を 3 月までに終わらせるように活動する予定であることが魚本同小委員長より再度示された。関連して、性能照査設計の必要性和簡易的な（従来型の）設計の位置づけなどについて議論がなされた。

梅原規準関連小委員会委員長より規準編は来年 2 月出版を予定しているの、10 月の常任委員会で内容を審議することにしているとの報告があった。

（4）示方書英訳原稿

上田標記小委員会委員長から、英訳作業の現状報告および今後の予定について説明がなされた。各編の英訳原稿はウェブに登録されておりダウンロードが可能であること、構造性能照査編、耐震性能照査編、維持管理編については、9 月の常任委員会で審議終了をしたいと考えているので、7 月末までに意見を提出することとなった。意見の提出に際しては、幹事会で各委員の分担を決めて、メールにて連絡することとなった。また、ACT への投稿について了解された。

英文示方書は、英文シリーズとして各編ごとに出版することが出版委員会です承されているが、英文示方書の販売・配布方法について以下の意見が出された。

- ・アジアでのセミナー等で紹介するなどの長期戦略を考える必要がある。
- ・売る戦略よりも使ってもらう戦略が必要である。
- ・無料でダウンロードできるようにすべきである。

このような意見を踏まえ、配布戦略について、幹事会で議論することになった。

(5) 超高強度繊維補強コンクリート設計・施工指針（案）

二羽標記小委員会委員長より資料 2-6-1～2-6-3 に基づいて、前回常任委員会以降に提出された指針（案）の修正意見への対応について説明がなされた。7 月末に出版委員会に原稿を提出、8 月に印刷を完了し、9 月と 10 月に講習会を開催する予定であることが紹介された。以下の修正意見が出され、その取り扱いが二羽小委員長に一任され、指針（案）の出版が承認された。

- ・参考資料 p.4-3 の図面と写真の方向を合わせること（堺委員）
- ・プレテンションの場合に応力開放前の収縮によってコンクリートに引張応力が蓄積される懸念がないか（佐藤良委員）
- ・プレミックス方式とノンプレミックス方式の定義において「混練り」「ミキサ」の表記を修正する（辻委員）
- ・解説図 12.8.2 が低熱ポルトランドセメントを用いたものであることを明記する（坂井委員）
- ・解説表 12.3.2 について標準配合粉体の規定の表記内容がこのレベルでよいか（魚本委員）
- ・p.35 の外ケーブル PC 構造についての内容が分かりにくい（睦好委員）
- ・単位が明記されていない図がある（十河委員）

(6) 電力施設解体コンクリート利用検討小委員会・指針案

河野標記小委員会幹事長から、資料 2-7 に基づき指針案の概要が説明された。指針案の骨子・内容についての意見を 7 月末に提出することが確認され、意見様式をメールにて配布することになった。また、管理を記述する必要がないか（十河委員）照査について章立てする必要がないか（堺委員） 24N/mm^2 未満の強度に適用を絞ればどうか（魚本委員）といった意見が出された。同指針案は年度内の完成を目指しているとの紹介があった。用語の定義における用語の順番付けのルールについて幹事会で検討することになった。

(7) コンクリートライブラリー「2003 年に発生した地震によるコンクリート構造物の被害分析」

梅原標記小委員会委員長から、資料 2-8-1 に基づきライブラリー原稿の説明がなされ、11 月 18 日に講習会が予定されていることが紹介された。内容の詳細として、地震動について古本 WG 幹事より、被害状況について鈴木 WG 主査より、動的解析について中村 WG 主査より説明がなされた。講習会の日程の確認（渡辺委員）序論等の必要性（竹田委員）カラー印刷の費用と写真の CD-ROM 化（魚本委員）について意見・要望が出された。

(8) 小委員会委員の追加・交代および 331 委員会委員構成

丸山委員長から、資料 2-9-1～2-9-3 の委員構成および交代が説明され、了承された。

4. 報告事項

(1) 国の府省連携プロジェクト「革新的構造材料の建設市場への活用」に関する委託研究へのコンクリート委員会委員選出について

上田委員から標記委員会の受託経緯が説明され、コンクリート委員会からの推薦として睦好委員と下村先生が参画することになった旨の報告がなされた。

(2) 震災 10 周年記念事業への協力体制

睦好委員より、資料 2-10 に基づき記念事業の説明がなされた。技術マップの作成方針について中村幹事が担当すること、パネルディスカッションは丸山委員長がパネラーになることが確認された。

(3) 継手定着指針改定の準備状況

三島幹事から、準備状況について報告された。委託先のとりまとめ作業中で、ゼネコン 6 社、継手メーカー 7 社、鉄鋼メーカー 3 社の合計 16 社が参画を前向きに検討している状況であることが説明され。また、目標 20 社がそろった時点で開始する予定で、次回の常任委員会で委員会の体制を議論する予定であるとの報告がなされた。

(4) 台湾シンポジウム準備状況

堺国際関連小委員会委員長から、資料 2-11 に基づき、ジョイントセミナーの内容が紹介された。また、国際関連小委員会の業務に関連して、担当幹事の選定およびホームページ等の活動体制について幹事会で検討することになった。ジョイントセミナーの詳細については、堺同小委員長に一任することが確認された。

(5) 塩化物イオン試験方法、断面修復材試験方法の英訳版出版時期

宇治幹事から、資料 2-12 に基づき英訳版の出版方針について、英文シリーズの一環として出版する予定であることが報告された。内容については既に土木学会規準として、また、ISO 助成金で英文チェックもされているので、今後の出版を規準関連小委員会に一任した。また、試験方法は土木学会が責任を担うものであるため、コンクリート委員会の名前で出版し、著者としてワーキングメンバーの名前を掲載することとなった。塩化物イオン試験方法と断面修復材試験方法は別々に出版することが確認された。宇治幹事より、出版のルール作りは出版委員会で議論していることが紹介された。

(6) 規準編英訳出版に関わる経費の方針と表紙デザイン

最終的なデザイン案を回覧した。

(7) ローマコンクリート調査小委員会発足について

三島幹事より、アウグストゥス別荘と考えられている古代ローマコンクリートの調査経緯およびコンクリート委員会で委員会を発足して取り組むことの提案説明がなされた。寄付金を特別会計に繰り入れて、年度単位ではなくて活動することに使う予定である。詳細が未定な点もあるが、興味あるテーマであるため、コンクリート委員会の活動テーマとして取り上げたいとの説明が丸山委員長よりなされた。現時点で詳細が確定していないので、今後、状況を適宜報告していくこととなった。

(8) 複合構造委員会常置化の現状報告

横田幹事より、資料 2-13 に基づいて、標記委員会の常置化の提案に対する現状が説明された。

(9) その他

(1) 資料 2-14～2-17 に基づきシンポジウムおよび講習会の開催が紹介された。特に、福手委員より

生涯教育と情報発信に関するシンポジウムへの参加申込者が少ないので、参加および参加の勧誘をお願いしたいとの要請がなされた。

(2) CONMAT'05 について魚本委員より紹介がなされ、論文投稿が可能な委員は、テーマの概要について魚本委員に連絡をすることが要請された。

以上